



学校の存在意義について、コロナ禍での制約や新しい取り組みで、子どもや保護者、教員は色々と考えさせられ、変わってきたと思います。リモート授業をすれば学校に行かなくても良いなど口にする子どももいて、ここ三年間 SSW をやらせてもらって、不登校児童や行き渋り、子ども同士の問題を抱える子どもが多くなったと感じております

学校教育は社会にとってどんな存在意義があるのか、問われていると思います。

親として子どもによく言っていることとして、①学校は勉強だけじゃなく、友だちと会って話したり遊んだりする場でもある、②オンラインだけでは学べない教科もある、③行事などで同級生や他の子どもと楽しめる場でもあるなど。

学校は世界全体をコンパクトに集約したものを、文字や記号でととして学ぶと、モレンハウアーが「提示」の世界と言っています。

椅子に座っていることなどのルールを守ること、集団行動をとらなくてはいけないことに窮屈に感じて落ち着かない子どもがいて、学びだけではない課題もあります。

自分にとって学校は、子どもが自分ってどんな人なんだろう、何をやりたいのか、何ができるのか、本当の自分はどういう自分だろうかと、「自分探しの場」と思っています。自分の歩む方向の扉を、学校を通して見つけて欲しいと思っています。

子どもが学校の存在意義を口にしてきたら、一旦は子どもの話を受け入れ、子どもが自分を考えることができる余地を残して話をして欲しいと思います。



© dak



© dak